

# ♪ コラム ♪

シニアアンサンブルのための楽器知識

## 〔14〕ラテン打楽器 その1

生駒先生のご協力をえて、知っておれば大変助かるラテン打楽器の知識をシリーズで連載します。ラテン打楽器はざっと数えてみますと10～12種類あります。先ず筆頭は、

### ☆ マラカス (MARACAS)



南米特産のマラカの木の実が堅いのを利用して、中をくりぬき、乾燥させたものの中に小さい小石又は堅くて小さい木の実を少し入れて、握る柄をつけてこれを振り、鳴らして演奏します。

中の木の実が正確にリズムを刻める様に振るのが、この楽器の演奏のコツで難しいところでもあります。ジャラジャラと鳴る音では無く、シャキシャキとはっきりリズムが出る様に動かす事が大切です。この楽器の起源はコロンブスが1519年にメキシコに上陸する以前の先住民に残っていた踊りの中で見る事が出来ます。古くから伝わる先住民の踊りに、『鹿の踊り』がそれです。私の独断と偏見から書かせて戴くと、ラテンリズム楽器の先祖はマラカスだと思います。この楽器をラテンボレロで演奏すると、4/4拍子で『チカ、チカ、チカ、チカ』と発音させ、南米でいうボレロはヨーロッパのボレロ（例、ラベルのボレロ等）とは全く異なるリズムです。代表的な曲はベッサメ・ムーチョとククルクク・パロマ等があります。

### ☆ クラベス (Claves)

クラベはスペイン語では鍵を意味する言葉で、昔の鍵は木製だったからか堅い木製の短い棒が2本でクラベスとスが付く、ラテン音楽には非常に大切な楽器です。素材が黒檀が一番堅い木とされているので、これが一番良い音が出ます。

演奏法は片手のたなごころの上に軽く乗せてその上を軽く叩きます。（写真を参照）

よく見るのが、両手でしっかり持って、カ一杯叩いています。これでは『火の用心』になってしまいます。



### ☆ ギロ (Güiro)

この楽器も中南米原産の瓢箪（ひょうたん）をくりぬいて表面にギザギザを入れて、細い棒（お箸くらいの）でこすってギロギロと演奏する。

胴体には響きを良くするための穴が開いてるが、よく見かけるのがこの穴に指を入れて、挟むように持って演奏している。しかしこの穴は、ヴァイオリンのf字口の様に中の響きを生かすための穴なので、この楽器も手の上に軽く乗せて、ギーチョチョ、ギーチョチョ、と演奏する。



### ☆ 他の打楽器類

カサバ、カフォン、ボンゴ、コンガ、ティンパレス、タンブリン、トライアングル、カウベル、ウッドブロック。等があり次号より連載予定です。

